

東上線からお出かけ みなと横浜で 潮風散歩



こんにちは、あずまです。今日は東上線との相互乗り入れの開始でより便利になった、横浜から元町・中華街を訪ねてきました。ここは「横浜みなとみらい21」地区。手前にある横浜レンガ倉庫は、春は「フラワーガーデン」夏は南国リゾートの雰囲気、秋はビール祭典「横浜オクトーバーフェスト」の会場に、冬はスケートリンクにもなります。(MAPの④)

今回の登場人物



赤塚 一郎
あずま 武司の父。鉄男の弟。埼玉県ふじみ野に暮らす雑誌編集者。



業平 武司
業平家の長男。あずまの弟。サッカーと鉄道を愛する高校生。



業平 あずま
業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



横浜高速鉄道みなとみらい線の終点、『元町・中華街駅』です。港の見える丘公園、外国人墓地、元町商店街、中華街、山下公園などの最寄り駅として、連日賑わっています。

横浜〜元町・中華街

（よこはま〜もとま）
（ち・ちゅつかがい）

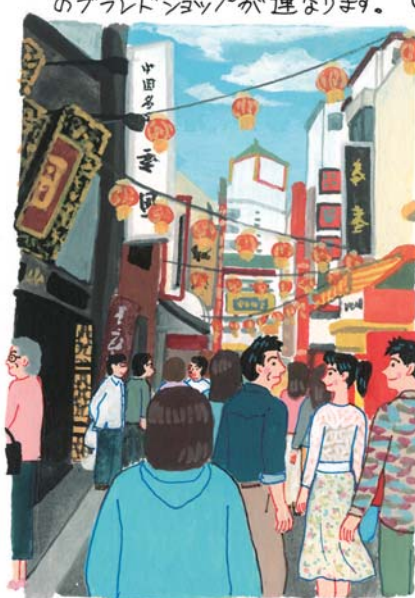
東武東上線を走る電車の行先は「元町・中華街」。この春から東上線は、東京メトロ副都心線を経由して東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線との相互直通運転を開始。森林公園や川越、志木などの東上線から電車に乗れば、乗り換えなしで自由が丘や横浜、元町・中華街まで出かけられるようになったのです。1都2県にまたがる首都圏の新しい動脈に進化した東武東上線から電車に乗って、横浜〜元町・中華街を訪れました。



映画『ユクリコ坂から』のモデルとされている公園から坂を下ると元町商店街に出ました。明治初期から、外国人向けの店舗が徐々に増えて形づくられた商店街。洋服や靴・バッグなどのブランドショップが連なります。(MAPの◎)



東上線からやって来た 一郎叔父さんと、「元町・中華街駅」で待ち合わせ。まずは坂を上って、「巷の見える丘公園」へ。ここは「横浜市イギリス館」。かつての英国総領事公邸です。園内のローズガーデンも見頃ですよ。(MAPの㊸)



ランチはもちろん中華街で。とはいえ約500M四方の街に、中国料理店だけでも200店以上あるので迷います。雑誌編集者の叔父さんお薦めの広東料理のお店で、中国グルメを堪能してきました。

(MAPの㊹)



中華街にやって来ました。ここは「關帝廟」。『三国志』の英雄、關羽を祀る中華街のシンボリック存在。震災や空襲、火災と何度か焼失し、現在の關帝廟は四代目になるそうです。中国式のおみくじも、ぜひ試してね。(MAPの㊺)

横浜開港の歴史を伝える 元町・中華街

元町・中華街駅の周辺は、横浜港の歴史をいまに伝える観光スポットが集中しています。

山手は幕末の開港時から外国人居留地として発展。現在でも洋館があちこちに点在し、異国情緒あふれる街並となっています。港の見える丘公園には昭和12年建築の横浜市イギリス館が保存され、旧フランス領事館の遺構も見学できます。また公園内のローズガーデンでは色とりどりのバラが見頃。展望台からは眼下に横浜港の大パノラマが広がります。

山手から港へ下っていくと山下公園。関東大震災の瓦礫を埋め立てて、昭和5年に開園した日本の臨海公園です。目の前の波止場には横浜港のシンボル・日本郵船氷川丸。アールデコ様式の豪華な船内を見学できます。また、同公園には赤い靴はいた女の子像やかめの水兵さんの歌碑など、横浜港に縁が深い記念碑やオブジェがあります。

港から踵を返して元町に向かいます。山手の下に広がる元町は、居留外国人のための商店街として発展。その洗練されたお洒落な雰囲気は、いまも健在で、美しい石畳が続くショッピングストリートにはホンモノにこだわった店が軒を連ねます。

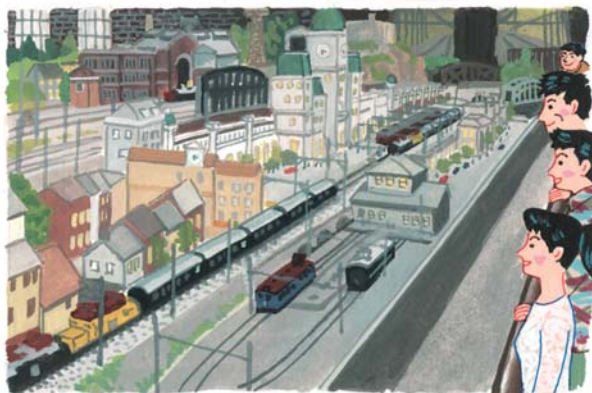
元町とは大通りを挟んで隣接する中華街は、やはり横浜開港で来日した華僑が築いたチャイナタウン。いまも3世、4世の人たちが中華料理や中国雑貨店など伝統の味と文化を引き継いでいます。街全体がチャイナレッドであふれ、よく見ると通りの電柱さえも真っ赤。そんなスパイシーな街並を歩くだけでも元気になります。



ここは同館の「マイカップヌードルファクトリー」。自分でカップをデザインし、4つの具材と好みのスープを選んで(組み合わせは5460通り)、世界にひとつだけのカップヌードルが作れますよ(1食300円)。(MAPの⑤)



「カップヌードルミュージアム」にやって来ました。ここは「チキンラーメン」から始まるインスタントラーメンの歴史を展示した「インスタントラーメン ヒストリーキューブ」。その数は、実に3000点以上! (MAPの⑥)



世界最大級のレイアウトを誇る「いちばんデューパーフ」。一番ゲージの蒸気・電気・トリーの軌道が走ります。鉄道だけでなく、街の建物や人々の姿のリアルさにビックリ! 撮影はNGですが、武司は大満足でした。(MAPの⑦)



鉄道ファンの武司が一番楽しみにしていた、「原鉄道模型博物館」にやってきました。第二展示室「語る模型」で、東武鉄道の模型を見ました。1931-34年に走った「クハユ1形、デハ17形」という車両でした。(MAPの⑧)

みなとみらいで注目のミュージアム

ベイエリアの最先端都市・みなとみらいにはアミューズメントもたくさんあります。まずはカップヌードルミュージアム(正式名称「安藤百福発明記念館」)。日清食品の創業者・安藤百福氏はインスタントラーメンを発明した人物で、ここは彼の創造的思考を知り、発明・発見のヒントを学ぶ体験型ミュージアムです。

「フリエイティブシンキング ボックス」は、安藤氏の創造的思考を6つのキーワードで紹介し、遊びながら、楽しみながら、驚きながら体感する空間。また、自分だけの好みのカップ麺を作る「マイカップヌードルファクトリー」や、粉から手作りする「チキンラーメンファクトリー(要予約)」も人気です。

原鉄道模型博物館も注目的。ここは鉄道模型製作者・収集家の第一人者・原信太郎氏の膨大な希少なコレクションを一般公開した施設です。

鉄道が著しい発展を遂げた時代の日本・ヨーロッパ・アメリカを中心とした世界中の鉄道車輛の模型を展示。その造形の美しさに息を呑みます。圧巻なのは、1番ゲージ(縮尺約1/32)の鉄道模型が走行する世界最大級の室内ジオラマ。ここではホンモノの鉄道と同じく架線から電気を取り、鉄のレールを鉄の車輪で走るといふこだわりで、走行音もホンモノと同じで圧倒されます。

さて、横浜の開港記念日を祝う横浜開港祭が、みなとみらいをメイン会場に開催(6/8・9)。港を光と音と花火で彩る「ビームス・ペクタクルinハーバー」など、多彩な催しで盛り上がりします。

横浜～元町・中華街データファイル

〈カップヌードルミュージアム (安藤百福発明記念館)〉 ●交通=みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅より各徒歩8分 ●開館時間=10:00～18:00 (入館は17:00まで) ●休館日=火曜 (祝日の場合は翌日休館)、年末年始 ●入館料=大人500円/高校生以下無料 ☎総合案内ダイヤル 045-345-0918 / チキンラーメンファクトリー予約専用ダイヤル 045-345-0825 (受付時間=10:00～18:00 *休館日を除く)

〈原鉄道模型博物館〉 ●交通=みなとみらい線新高島駅徒歩2分/横浜駅徒歩5分 ●開館時間=11:00～18:00 (最終入館17:30) ●休館日=火曜 (祝日の場合は翌営業日に振替)、年末年始、施設保守点検期間 ●入館料=大人1000円/中学・高校生700円/小人(4歳以上)500円 ☎045-640-6699

〈第32回横浜開港祭2013〉 ●期間=6月8日(土)・9日(日) ●会場=臨港パーク及びみなとみらい21地区/山下公園/新港地区/その他周辺 ☎横浜開港祭実行委員会 045-212-5511

みなとみらい地区にある、鉄道廃線跡を利用した遊歩道「汽車道」です。(MAPの(H))



みなとみらい地区にある、鉄道廃線跡を利用した遊歩道「汽車道」です。(MAPの(H))



山下公園にある「赤い靴はいていた女の子」像です。この女の子の像は、横浜駅構内にもありますよ。(MAPの(I))

